



近年のマーケティングの対象は国内市場中心からグローバル市場へと広がっております。

弊社では、グローバル市場においても足で稼ぐ生きた情報を収集すべく、充実した社内体制と外部ネットワークを構築し、多数の海外調査を実施しております。

『グローバルマーケティングラボ』では、工業市場研究所の海外調査のメニューの紹介や調査実績、各国情勢コラムを掲載しております。調査実績、海外情勢コラムは随時、更新を行っておりますので、是非、ご覧ください。

海外市場調査にご興味のある方は、TEL:03-6459-0165 又は  
<http://www.global-marketing-labo.jp/contact/> までご連絡下さい。

---

----- WEEKLY NEWS -----

◆電子材料：四国化成工業が次世代密着性向上プロセスの処理設備を拡充  
(7月27日)

四国化成工業は、自社の R&D センターにおいて、次世代密着性向上プロセス「Glicap」の処理設備を拡充し、開発を加速すると発表した。

プリント配線板は、これまで、薬剤で銅の表面を粗化することで物理的に樹脂との密着性を高める方法が一般的であったが、電子部品の小型化・薄型化に伴い、高付加価値のプリント配線板では、回路幅の細線化が進み、銅表面を粗化することが難しくなってきた。また、実用化に近い第5世代移動通信システムでは、膨大なデータを高速で伝送するため、表面が平滑で、伝送損失の少ない銅回路が求められている。

「Glicap」は、このような次世代のニーズに適応し、表面を粗化することなく、銅と樹脂の密着力を化学的に向上させるプロセスであり、次世代半導体や高速伝送に対応したサーバー用プリント配線板での採用を見込んでいるとしている。

◆ゴム：日本ゼオンがバイオマスからイソプレン生成新技術を開発(7月26日)

日本ゼオンは、理化学研究所(以下、理研)、横浜ゴムとの共同研究により、バイオマス(生物資源)からイソプレンモノマー(以下、イソプレン)を効率的かつ安定的に生成できる新技術を開発したことを発表した。

日本ゼオン、理研、横浜ゴムは2015年にコンピューターで人工代謝反応を新規に設計する技術を用いてコンピューター内でイソプレンの新規合成法を発見している。新技術はこれを進化させたもので、世界で初めて細胞内で出発原料であるバイオマスからイソプレン生成までを一貫して行うことに成功した。さらに生成したイソプレンを重合してポリイソプレンゴムの合成も実現している。

イソプレンは、主に自動車にタイヤなどの原料として使われる合成ゴムの原料として使用されている。現在、イソプレンはナフサ熱分解の副生成物として工業的に生産されているが、イソプレン生成技術を確立することにより、石油依存が軽減され、二酸化炭素削減への貢献が期待できるとしている。

◆電子材料：AGC が米国 Park Electrochemical 社のエレクトロニクス事業を買収（7月26日）

AGC は、米国 Park Electrochemical 社（以下 Park 社）との間で、Park 社のエレクトロニクス事業を約 160 億円で取得することにつき合意し、株式譲渡契約を締結したことを発表した。

Park 社は主要事業であるエレクトロニクス事業において、プリント基板材料である CCL (Copper Clad Laminate、銅張積層板) の開発および製造を営む企業である。

今回の買収により、IoT/AI 時代の到来、5G や自動運転の普及等により大幅な需要の伸びや技術の進化が求められるハイエンド CCL 市場において、AGC の有するフッ素やガラス材料等と Park 社の製品、技術・ノウハウ等を融合することで顧客のニーズに貢献していくとしている。

◆電子材料：三菱マテリアルが拡散防止膜用 W-Ti スパッタリングターゲットを開発（7月25日）

三菱マテリアルの電子材料事業カンパニーは、半導体ファインピッチプロセスに対応した拡散防止膜用 W-Ti (タングステン-チタン) スパッタリングターゲットを開発し、7月から量産を開始したと発表した。

半導体チップを電子基板に実装する際は、下地電極上に Au (金) バンプという数十  $\mu\text{m}$  の球状の電極を形成するが、高温下での使用機会が増えることに伴い、相互拡散による電気抵抗の上昇や密着性の低下のおそれがあるため、通常は下地電極と Au バンプの間に W-Ti スパッタリングターゲットにより形成した拡散防止膜 (W-Ti 膜) を用いて元素の相互拡散を防止する。これまでの拡散防止膜はエッチングレートが遅く、更にその制御が難しいため、半導体素子実装工程における生産効率の向上と半導体ファインピッチプロセスに対応できるエッチングレートの制御が求められてきた。

同社はスパッタリングターゲットにつき、生成された拡散防止膜のエッチングレートを最大で約 60% 向上させた上、その範囲でエッチングレートを自由に制御することに成功した。

三菱マテリアルでは、今回の W-Ti スパッタリングターゲットの開発は、半導体ファインピッチ (電極間隔が非常に狭い配線) プロセスへの対応を可能にし、半

導体素子実装工程の生産効率の向上にも寄与するとしている。

◆住友化学のグループ会社であるベーラント・バイオサイエンス社が米国でバイオリショナル研究開発拠点を稼働開始(7月26日)

住友化学は、同社のグループ会社であるベーラント・バイオサイエンス社(以下、「VBC」)が、「バイオリショナルリサーチセンター」を米国イリノイ州にあるVBC本社近接地に建設した新施設に移転し、稼働を開始したことを発表した。

VBCは、微生物農薬、植物生長調整剤などのバイオリショナル分野(天然物由来などの微生物農薬、植物生長調整剤、根圏微生物資材などや、それらを用いて作物を病害虫から保護したり、作物の品質や収量を向上させたりするソリューション)事業を世界90カ国以上で展開している。「バイオリショナルリサーチセンター」は、同社の健康・農業関連事業研究所のバイオリショナル拠点として、本分野の基礎研究から応用研究までの幅広い活動を行っている。

同社では、今回の移転により、VBC本社と近接している立地を生かし、VBCのマーケティング・販売と研究開発とのさらなる一体化を進め、研究開発強化につなげていくとしている。

◆EV関連:積水化学工業が欧州における放熱材料事業の拡大を発表(7月25日)

積水化学工業は、連結子会社である積水ポリマテックのEV(電気自動車)等環境対応車向け放熱材料の生産工場をオランダに新設することを決定したと発表した。

同工場による放熱材料の生産および欧州エリアの放熱材料拡販を担う新会社の設立にかかる投資額は約16億円を予定している。今回オランダに設立する新会社は積水ポリマテックの100%子会社となり、新会社登記完了は2018年8月、工場着工は2019年1月、工場の稼働開始は2020年春を予定している。

今回の投資により、積水ポリマテックのグリス状放熱材料の生産能力は約3倍に強化され、同社の放熱材料事業では2022年度に売上高85億円を目指すとしている。

◆電子部品:日亜化学工業がLED応用製品の生産体制を拡充(7月25日)

日亜化学工業は、鳴門工場に新たな生産棟を建築し、LED応用製品の生産体制を拡充すると発表した。

LEDは、主に照明向けやバックライト向けの需要が堅調に推移するとともに、自動車の内外装等車両への搭載や産業機器用途など様々な分野への利用が広がっており、今後の更なる市場の拡大が予想されている。

新生産棟の建設費を含む初期投資額は、約 130 億円を予定している。また、新生産棟完成後、生産設備を順次導入予定であり、2021 年までに建設費と合わせて約 160 億円の投資を見込んでいる。2021 年には鳴門工場の応用製品の生産能力を現在の約 2 倍へ増強する計画であり、それに伴い同時期に人員を 50 人から 100 人程度増員する見込みとしている。

◆樹脂：信越化学が米国に PVC の新工場を建設（7 月 24 日）

信越化学工業の米国子会社のシンテック社は、ルイジアナ州で塩から塩化ビニル樹脂（PVC）の一貫工場の新設を開始したと発表した。

すでに着手した第一期目の工事で増加する生産能力は PVC が 29 万トン/年、苛性ソーダが 27 万トン/年である。建設投資額は 14.9 億ドルの見込みで、2020 年末の完工を目指す。第一期工事完了時点の生産能力は、PVC が 324 万トン/年、苛性ソーダが 157 万トン/年となる。

シンテック社は、ルイジアナ州で PVC を一貫生産する工場を 2008 年に竣工させてから、3 回にわたり増設・増強を実施し、現在ではエチレン工場の建設も進めている。

PVC の供給能力は需要の伸びほどには増加していないことから、世界的に稼働率は上がってきている。苛性ソーダについても同様で、世界需要は供給を上回るペースで伸びてきており、この傾向が続くと見込まれる。シンテック社は米国の有利な原料事情を取り込みながら、北米及び世界の需要増加に着実に応え、後続の能力増強を行っていくとしている。

◆電子材料：日本ゼオンが台湾に現地販売会社を設立（7 月 23 日）

日本ゼオンは、台湾に高機能材料の現地販売会社『ゼオン台湾社』を設立し、営業開始したと発表した。

台湾は、主要電子部品における重要な市場であり、同社の電子材料はこれまで台湾で展開していたが、より一層の顧客密着を目指し、正式に現地販売会社を発足した。

新会社では、半導体、ディスプレイ顧客向けに、エッチングガス、絶縁材料、レジスト、薬液を中心とする電子材料の販売の強化を目指すとしている。

◆価格改定

- ・クラレが EVA エマルジョンを 8 月 1 日出荷分より値上げ  
値上げ幅は、一般品：20 円/kg、特殊銘柄・特殊荷姿品：30 円/kg
- ・昭和電工が硫酸（国内価格）を 9 月 1 日納入分より値上げ  
値上げ幅は、3 円/kg以上



株式会社 工業市場研究所

TEL:03-6459-0165 FAX:03-5408-1584

〒105-0003 東京都港区西新橋 3-6-10 マストライフ西新橋ビル

<http://www.kohken-net.co.jp>

◆メールの設定により、読み難くなる場合がございます。ご容赦ください。

◆配信停止・ご意見・お問い合わせはこちらへ [h-ikeda@kohken-net.co.jp](mailto:h-ikeda@kohken-net.co.jp)

